

かわにし

議会だより

第160号

2025

1.15



川西町議会H.P
QRコード

しあわせな
1年を

犬川地区祝品事業 P15に関連記事
犬川地区交流センター提供

政策提言回答	4
一般質問 4議員が町政をただす	7
委員会レポート(視察研修)	12
まちかどインタビュー	14
追跡 除雪業務の効率化	15

発行／山形県川西町議会

編集／広聴広報常任委員会

印刷／有限会社 笹原印刷

〒999-0193 山形県東置賜郡川西町大字上小松977番地1 TEL0238 (42) 6674 HP <http://www.town.kawanishi.yamagata.jp>

**12月
定例会**

12月定例会が、12月3日から12月13日までの11日間の会期で開催された。

第1日目に、工事変更請負契約の締結、各会計補正予算の専決処分の審議採決、条例1件、指定管理者の指定3件、令和6年度各会計補正予算2件が一括上程され、常任委員会および予算特別委員会に付託した。

第2日目に4人の議員が一般質問を行い、旧玉庭小学校活用、川西診療所整備、ジェンダー平等社会、自治公民館維持などについて町政をただした。

第4日目以降、常任委員会、予算特別委員会分科会を開催し、各議案を審査した。

最終日に、付託した条例、指定管理者の指定3件、補正予算2件を原案通り可決した。追加提案された川西町特別職の給与に関する条例、川西町一般職の給与に関する条例、一般会計、介護保険特別会計、水道事業会計、下水道事業会計の4件の補正予算を審議採決し閉会した。今定例会の傍聴者は11人だった。

一般会計補正予算

一般会計補正予算（５号）では各会計の額の実績確定に伴う返還金、各種システム改修、医療・介護給付の増加などに伴う補正が中心であった。

現在の組織体制は、課により職員数や業務範囲に偏りがあることや、人口減少社会の到来、今後の職員数の減少、他自治体との比較などから組織体制を見

直し、課の縮小を図る。また、現在あるそれぞれの課内で、業務に特化したもの、業務範囲の量の偏り、業務の複雑化・多様化により、課の横断的な業務が増えてきているなどの理由により、課の再編とあわせ、所掌事務の見直しを図り、より効率的に町民ニーズに応えられる組織を目指すとして関係条例を改正する。

(p6 条例参照)

除雪待機費（最低保障賃金）を90時間から100時間に延長し、除雪オペレーターの確保に努める。

年度当初予算で措置されていた事業で、さらに増額される。支給は住民税非課税で、高齢者世帯、障がい者世帯、ひとり親家庭などである。

会 計 別	歳入歳出予算	議決の内容
一般会計(第5号)	135億2816万円 (2億4466万円を追加補正)	全員賛成により可決
水道事業会計(第4号)	4億6002万円 (600万円を追加補正)	全員賛成により可決
一般会計(第6号)	137億4994万円 (2億2177万円を追加補正)	全員賛成により可決
介護事業特別会計(第3号)	21億766万円 (157万円を追加補正)	全員賛成により可決
水道事業会計(第5号)	4億6283万円 (281万円を追加補正)	全員賛成により可決
下水道事業会計(第3号)	3億5229万円 (38万5千円を追加補正)	全員賛成により可決

補正予算(第5号)		補正予算(第6号)	
障がい介護給付事業	9798万円	ふるさとづくり基金管理事業返礼品	4000万円
子育て支援医療事業	1440万円	ふるさとづくり基金積立金	1億900万円
河川管理事業	1100万円	人件費	6152万円

問 小学校維持管理費の内容は

教育文化課長 令和7年度に中
郡小学校で特別
支援学級の増設があり
エアコン設置工事が複
雑な工事だったため高
額となった。

問 高齢世帯などに
毎年実施される

問 ふるさと納税増額の状況は

意見
 した。
 問
 支拂の充実を図
 るよう意見を付
 するさと納税増
 額の状況は

住民課長 近年町内でも葬祭事業を展開で

定管理者を公募
によって選定したがその経緯は

住民課長
近年町内でも葬
祭事業を展開で

努めるよう意見を付した。

「意見」を決定した
さらなる住民サ
ービスの向上に
努めるよう意見を付し
た。

福祉灯油が増額になる
その内容は

当初予算で1世
帯5000円

産業振興課長の
今年のコメ不足
の影響で長期的

に確保できるふるさと納税が増加している。

きる事業所が増えたことにより、選択の幅を

広げることが可能になり公募とした。

議会基本条例の規定により賛否の分かれたもののみ、各議員の議案に対する賛否状況を報告する。

[illegible]

他の議案はすべて全員賛成でした。
○は賛成、×は反対、－は欠席。議長は賛否に加わらない。

策言

11月1日、令和6年度の政策提言が井上議長から茂木町長に手交された。町民との意見交換を集約のうえ各常任委員会での検討を経て、議会として政策提言にまとめた。

これに対し、町長から12月3日に回答があった。

1 提言

地域コミュニティへの支援

- 1 自治会長の負担軽減を図ること
- 2 自治会の合併に向けた支援体制を構築すること

回答

自治会長
の負担軽減
については、関係各課
および関係団体と連携
を図りながら、必要に
応じて見直しに取り組
んでいく。

自治会長報酬につ
いては、町から依頼して
いる自治会長の業務に
対して支払いしている
ものであり、均等割額
に戸数割額を加えた算
出方式により積算して
いるが、今後、自治会



自治会長会議

では、人口減少や高齢化により自治会を維持運営することが困難になることから、自治会組織の見直しを図り、近隣自治会と合併した事例があった。自治会の合併に関し町へ相談いただいた場合には、これまで同様、個別の状況を把握しながら対応していく。

2 提言

魅力あるまちづくりの推進

- 1 移住定住および関係人口の拡大に向けた取り組みを図ること
- 2 町民の幸福度を上げる取り組みを図ること

回答

地域おこ
し協力隊や
空き家を有効に利活用
するためには、多様な
選択肢を準備すること
が重要と考える。地域
おこし協力隊の「地域
定着活動」を新規開拓
し、定住、定着を促進
する取り組みを進める

とともに、空き家所有者へは「空き家バンク登録」等の情報提供を行い、空き家を活用した定住促進を図り、移住定住、関係人口として選ばれる環境を整えていく。

また、これまで、協力隊の募集情報、移住



関係人口拡大に向けて、紅大豆で交流

相談フェアの開催情報および外郭団体が実施する関係人口拡大事業等の開催情報を発信してきた。

引き続き、行政および関係団体が運営するSNSや移住関係情報サイトなど、さまざまな情報媒体への投稿や記事掲載により、移住検討者の目に留まる機会が増えるよう積極的な情報発信に努めていく。

町民の幸福度に関しては、町内で催される各種行事等へは、今後とも町の趣旨にのっとり、自主的な活動への支援に取り組むとともに、町民一人ひとりが生き生きと活動できる環境を構築することです。さらなる活性化を図る。買物弱者への支援は、町民のさまざまなニーズや生の声を集約し、必要な方への情報提供による生活支援の充実等を図っていく。

3 提言

将来の医療体制づくり

- 1 医療・介護体制の充実を図ること
- 2 公立置賜川西診療所の整備方針を整えること

回答

現在、在宅から医療を講じている。入退院時の医療機関へつなぐ工夫や在宅で



将来の医療・介護体制の充実を = 公立置賜川西診療所

と福祉・介護サービスをつなぐ体制づくりは、利用者や家族を取り巻く関係者の連携により対応している。

訪問看護は、現在、町内4カ所の診療所で訪問看護ステーションと連携し実施されている。

今後、ますます高齢化が進展することに伴い、誰もが安心して医療を受け、住み続けることが出来るよう、さらなる訪問診療および在宅医療を推進していく。

なお、不安を抱えた町民の窓口となる庁内相談窓口においては、分野を超えた包括的な

4 提言

子育て世代への支援拡充

- 1 保護者負担が生じないよう、保育料の完全無償化に向け対応すること

回答

保育料については、子以降のお子さんをもつ保護者の負担軽減を図っている。

令和4年度から山形県による段階的負担軽減事業に併せ、町で上乗せして保育料の軽減を行っている。今年度は、**※保育認定多子カウント**を小学校就学前から18歳までに拡大し、第2



保護者の負担軽減に向けて



町政をただす

4人の議員がするどく一般質問

定例会第2日目に一般質問が行われ、4人の議員が町政について質問しました。(発言順)に掲載します。

P8	吉村 徹 議員	① 文科省の2023年度「問題行動、不登校調査」 ② 「川西町愛知大学本間喜一奨学金」制度 ③ 閉校した玉庭小学校
P9	船山 千鶴 議員	① 川西町交流館あいばる ② 公立置賜川西診療所
P10	橋本 欣一 議員	① 「非核平和都市宣言」 ② ジェンダー平等社会の実現 ③ 米坂線の復旧
P11	遠藤 明子 議員	① 自治公民館の維持管理 ② 小・中学校における防災の学び

一般質問は、議会ホームページの録画中継によって見るができます。(https://www.town.kawanishi.yamagata.jp)

㊦ 抜きの数字は掲載された質問。それ以外は誌面の都合により掲載できなかったもの。

まちの未来が見える(12月定例会の傍聴者は11人)
議会傍聴においでください
どなたでも傍聴できます
(事前連絡は不要です
役場3階においでください)
次回定例会は3月です

定例会本会議、予算特別委員会はNCV、インターネットで生中継。議会フェイスブックもご覧ください。



条例

川西町課設置条例の一部を改正する条例の制定

改正は、次の通り。

○安全安心課を廃止
○財政課・まちづくり課を廃止し企画財政課を新設

○産業振興課・農地林務課を廃止し農林課を新設

○産業振興課・まちづくり課を廃止し商工観光課を新設(p2参照)

施行期日

令和7年4月1日

本会議
全員賛成により可決

給与条例

特別職

国家公務員の給与改定に準じて、本町特別職の職員(三役および議員)の諸手当について改定するもの。

施行期日

公布の日から施行し、令和6年4月1日から適用。令和7年度以降の期末手当支給割合に係る改定は、令和7年4月1日から施行する。

本会議

全員賛成により可決

一般職

国家公務員の給与改定に準じて、本町一般

職の職員および再任用職員に係る給料月額、期末手当等各種手当について改定するもの。

施行期日

公布の日から施行し、令和6年4月1日から適用。令和7年度以降の期末手当等の改定については、令和7年4月1日から施行し、令和8年度以降の扶養手当の改定については、令和8年4月1日から施行する。

本会議

全員賛成により可決

指定管理

公の名称

川西町斎場共同企業体
公衆による初めての指定管理者となる。本会議

賛成多数により可決
(反対1)

公の名称

川西町たまにわ
堆肥センター
指定管理者となる団体の名称

株式会社ランピード

たまにわ

本会議

賛成多数により可決

(反対1)

公の名称

森のマルシェ

かわにし

指定管理者となる団体の名称

株式会社かわにし

森のマルシェ

本会議

賛成多数により可決

(反対1)

専決処分

○水道事業会計で、漏水が発生した大塚地区
交流センター配水管布
設替工事

本会議

全員賛成により承認



広報モニターから ひとこと⑦

上小松 菅野 陽子 さん

活気ある川西町に

私が子どもの頃に比べ、子どもの数や公園、商店も減り、寂しい気持ちです。消滅可能性自治体にも上げられ、今後さらに人口が減るのでしょう。ゆったり時間が流れ、どこかほっとするこの町がずっと

と存在し続けられればと願う日々です。
存在し続けるには人が必要です。生産年齢、特に青年世代の定住ができればと思います。
私自身、5年前に帰郷しましたが、働ける場所・住む場所があったからです。働けなければ帰郷できませんでしたが、厳しい状況ですが、働ける環境を充実させてほしいと思います。
三菱鉛筆も一部移転します。町内に何かしらの企業誘致が実現するよう願います。
また、子育て環境も整えたいと思います。小さい子から高学年、祖父母まで過ごせるような休憩もできる大型遊具のある公園や屋内施設があれば一家庭でお出かけできます。食事もできれば消費にもつながるでしょう。そんな活気にあふれ、「住みたい」と思えるような町になればと思います。

一般質問

教育

本町における不登校やいじめの現状は

教育長 ― 未然防止のための居場所づくりを進める



吉村 徹 議員

吉村 小中学生の不登校数が、34万人

となっている事が文科省による「問題行動、不登校調査」によって明らかにされているが、本町の状況は。

吉村 小学校では、全国平均の半数以下、中学校では、若干下回っている状況にある。

吉村 本町における不登校、いじめに

吉村 学級や学校が落ち着ける場所となるよう「居場所づくり」と、日々の授業や行事において、すべての児童生徒が活躍できる場面を実現する「絆づくり」を進め、未然防止に取り組んでいる。

吉村 「愛知大学本町喜一奨学金」については、越知専氏からの寄付金を活用し取り組まれている。本町喜一先生の生誕地である本町から進学し、学んだことを本町のために生かす取り組みは。

吉村 毎年、川西中学校から進学した生徒が在籍する高校の協力を得ながら、各高校を訪問し、制度の説明を行っている。

本町喜一氏の「地域貢献者の育成」という大学創設時の思いに寄り添い、継続してこの取り組みを推進していく。

吉村 愛知大学との連携、協力に関する協定書に基づく交流と連携については。

吉村 今年、協定を締結してから10周年の節目を迎え、今後も、未来を切り開く人材の育成、本町の抱える地域課題の解決に向け、愛知大学との連携した取り組みを進める。

吉村 玉庭小学校の今後の在り方や、



愛知大生によるフィールドワーク(茅刈り、茅葺屋根の材料)

利用についてどのようなに考えているか。

吉村 今後の利用に向けては、地区の意向を最大限尊重することを第一とし、公共施設の在り方について慎重に検討を進めていく。

吉村 グラウンドについて雑草が生い茂る状況となっている。

全体の管理についての考えは。

吉村 現在の使用範囲は、体育館としており、地区の行事や消防団での活動などに使用することが可能となっている。地区において、グラウンドの使用が検討されている場合には、地区と協議を行い検討を進めていく。

吉村 旧川西町立第二中学校の跡地、川西町交流館あいぱる単体の収支はどうなっているか。

吉村 収入が58万2千円、歳出は141万5千円である。支出の効率化を図り、より、適切な管理運営を目指していく。

吉村 あいぱるの今後の活用について

吉村 より積極的なPRや、周知活動を通して広く町内外にあいぱるの魅力を発信する。町民はもちろん、スポーツ文化関係者や一般旅行者、さらにはビジネス利用者など幅広い

広く多くの方々が利用できるような新たな利用者を獲得することが必要。新たな活用方法について研究を進めていく。

吉村 シェアオフィスやコワーキングスペースなども検討すべきでは。

吉村 シェアオフィス、コワーキングスペースについても研究をしている。来年度以降そういったスペースにも活用できるように取り組んでいきたい。

吉村 公立置賜川西診療所建て替えにかかる費用は。

吉村 建設費として7億1100万円、

解体費用として6億円と試算している。

吉村 診療所建て替えの検討内容は。経費が高額になることに加え、地域医療を取り巻く環境が目まぐるしく変化しており、急速な少子高齢化の進展による人口減少が課題となる現状を踏まえ、効率的で持続可能な地域医療を提供する政策が必要。将来負担の低減も視野にさらなる検討が必要である。

吉村 医療Maasを導入する想定はないか。

吉村 県内でも実施実証されていると

ころもあり、本町においても現在研究している。

吉村 利用者の負担軽減、診療所建て替え費用の負担軽減、また災害の備えとなるので、医療Maasを含めた再検討はできないか。

吉村 私自身もこの建築費また除却費の額の大きさに非常に

驚いている。公共の診療所の在り方を医療Maasの検討も含めて今後考えていきたい。

吉村 ささえあいの丘について町民の意見を聞きながら具現化していくとあるが、その後の進展は。具体的な検討は進んでいない。

川西交流館あいぱるの現状と今後は

町長 ― 積極的なPR 新たな活用方法を進める

あいぱる



船山千鶴 議員



今後の利活用はどうか(交流館あいぱる)

一般質問

平和

「非核平和都市宣言の看板」再設置を

町長 — 平和を祈念する事業を継続していく



橋本欣一 議員

橋本 今年のノーベル平和賞を日本被団協が受賞した。感想は。

町長 唯一の被爆国として大変喜ばしいことだ。長年の活動に敬意を表す。

橋本 本町は昭和59年に「非核平和都市宣言」をし、旧庁舎前に堂々と看板を設置して内外に誇示していた。旧庁舎解体と共に撤去されたが、再設置

はできないか。

町長 平和を願う意思は、町民の心に刻まれている。

橋本 学校教育でも平和教育は重要である。現状はどうか。

町長 戦争を経験しない世代が増える中、平和の大切さを理解し、平和な社会を築く態度を育む教育を充実させていくことは重要である。それぞれの学年で多様な取り組み

をしている。

本町のジェンダー平等は

橋本 ジェンダー平等社会の取り組み

町長 男女共同参画推進計画を推進中で、審議会や委員会での女性の登用を進めているが目標の30%には届いていないのが現状である。性別役割分担や男性優位の習慣が根

強く残っており、ケア労働が女性に偏っている。各種研修会などを行い意識の変革に努めたい。

橋本 LGBTやパライティなどの性の多様性の認識や啓蒙は。

町長 令和5年にLGBT理解推進法が施行され、性指向、性の多様性理解を増進し実施するよう定められた。

橋本 学校では性の多様性に対する教育は進んでいるか。

町長 「いのちの教育」で生命尊重などを学んでいる。中学校では服装規定を変え、スカート、スラックスの選択、ネクタイ、リボンの選択、内履きの色の変更、男女混合名簿などを採用している。

その他 米坂線の復旧について質問した。



旧庁舎前にあった看板

自治公民館の維持管理、施設整備が困難に 町長 — 助成事業の活用で施設整備を継続支援

遠藤 近年の人口減少、それに伴う世帯数の減少や高齢化、地域を支える若者世代の自治会未加入等、自治会そのものの存続さえ危ぶまれる。また、地域住民の身近な拠り所である自治公民館の維持管理が困難な公民館もある。施設整備についてどう考えるか。

町長 自治総合センターのコミュニティ施設として活用し、継続して自治公民館施設の整備を支援していく。

遠藤 町内には118の自治公民館があり、中には階段や和式トイレ等で不便を感じ

ている方もいる。同様の一般質問が以前に出されたが、答弁は検討だった。その後、調査研究を行ったか。

町長 自治公民館に対する調査は行っていない。

遠藤 若い世代の担い手がいないため、公民館運営にも影響がでている。マンパワー不足を解消するため、町独自の支援策で下支えが必要では。

町長 役員の担い手不足等、自治会の存続は喫緊の課題と捉える。

自治公民館の運営は、地域住民による自治運営を基本としながらも、

幅広い視点で個別の状況を把握しながら対応していく。

遠藤 町民が、自治会関係の相談に来た場合、担当する窓口の職員は、分かりやすく住民に寄り添った丁寧な対応で当たること。

町長 学校教育の中で防災に関する知識や意識を育み危険に対応する力をつけることは生きる上で大切なこと。自然災害が頻発、激甚化する昨今、小・中学校における防災の学びはどうしているか。

町長 本町の小中学校では危機管理マ

ニュアルを作成し、児童生徒の避難方法、教職員の対応方法、保護者への引き渡しまで計画。各学校で年数回の避難訓練を実施し、児童生徒の安全確保に努めている。また、自助、共助、公助の視点からも防災教育や人材育成を進めている。

児童生徒の安全確保に努めている。また、自助、共助、公助の視点からも防災教育や人材育成を進めている。



地域住民の拠り所である自治公民館

愛知大学との連携確認

総務文教常任委員会

令和6年11月12～14日、愛知県豊橋市の愛知大学と三重県朝日町の人口減少対策の取り組み先進地視察を行った。

愛知大学豊橋キャンパス

本町で設立した「川西町本間喜一顕彰基金」を活用し、就学支援（奨学金の給付）を行うものであり、奨学金の対象要件は、東北



本間喜一氏創設の愛知大学構内視察

6県から愛知大学地域政策学部地域政策学科へ進学し、卒業後、地域貢献を志す者として奨学金の支給額は、年間75万円で4年間の継続支給となる。これらのことから、

今後も本町と愛知大学との繋がりを積極的に進め、地域政策学科へ進学を促し、少子高齢化や産業のグローバル化など

により、大きく変化する地域社会を見据えた人材育成に取り組んでいかなければならない。そして、育成した優秀な人材を地元に戻す取り組みを強く求め、いく必要がある。

三重県朝日町

朝日町は、令和6年9月末時点で三重県内では一番小さな自治体であるが、人口密度と年少人口の割合が一番高い町である。

「人口減少対策」の取り組みの中で、1番は「子育て世帯への移住定住アピール戦略」として土地画整備事業と併せて緑と調和の取れた住環境が確保され、交通アクセスにも

優れ、住宅に係る固定資産税を完納後に3年間は実質0円としている。

子育て世帯が多く、年少人口の割合が高いので、「保育サービス等の充実」「子育て環境整備の推進」として保育所・放課後児童クラブを希望者全員が利用できるようにしている。

これらのことを参考



人口減少対策での意見交換＝三重県朝日町

にして、本町でもより効率的で効果的な行政運営に取り組んでいくなかで、移住定住アピール戦略を第1に考え、若い世代の仕事・結婚・妊娠・出産・子育て・教育環境の切れ目ない支援のさらなる充実を図り、より良い生活環境で活動できるよう積極的に人口減少・少子化対策に取り組むべきである。

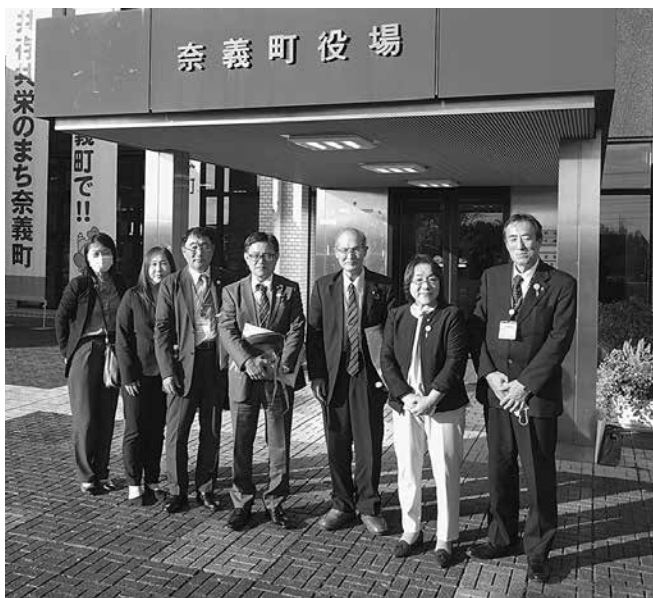
子育て充実で人口増加を研修

産業厚生常任委員会

令和6年11月11～13日、岡山市奈義町の子育て支援、および京都府精華町の健康づくりの先進地視察を行った。

岡山県奈義町

奈義町は昭和30年3月町村合併により誕生した人口5千6百人の



子どもが増えている岡山県奈義町(庁舎前にて)

町で、岡山県北東部に位置し、中心部から半径2キロに人口の8割が定住するコンパクトシティとなっている。

平成24年に子育て応援宣言をし、「未来を担う人づくり」を合言葉に、町独自のさまざまな子育て支援策を拡充

これからの有効な少子化対策は何か、住む場所、働く場所など、地域課題の解決を図りながら町独自の施策を展開していくことが重要であると感じた。

京都府精華町

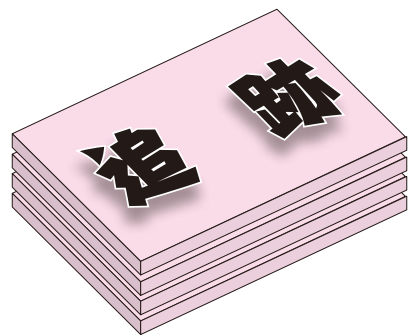
精華町は京都府の南西端にあり人口3万6千人の、いにしえから続く歴史と文化の町として知られている。町



健康長寿に取り組んでいる京都府精華町(議場にて)

では平成25年に「精華町健康増進に係る庁内推進本部」を設置し、町民の健康を取り巻くさまざまな課題解決に向けて、総合的かつ多角的に検討するための取り組みがなされてきた。医療、介護、予防、住まい、生活支援が一

体的に提供される精華町健康増進（せいか365）の構築に取り組む、「健康寿命」を評価指標として、町民一人ひとりが健康づくりに主体的に参画することで、健やかで元気に満ちた地域社会の実現を目指している。



あれから…… どうなった！



適宜適切な除雪は万全



GPSで適切な状況把握

除雪業務の効率化をはかる

除雪状況を瞬時に把握

平成30年3月議会の一般質問で、除雪機械へのGPS搭載で、作業効率を向上すべきとの意見が出された。

現在の町道の除雪延長は令和6年度269・9km、除雪車両は54台、除雪オペレーター数は75人体制である。除雪機械の管理および除雪業務の効率化、適正化を図り、除雪事業者の事務負担の軽減やオペレーターの負担

軽減化により育成支援を図ることを目的にGPS除雪管理システムを導入した。

GPSの効果は

GPS導入前は、除

雪費の計算は事業者がタコグラフを読み取って日報を作成し、行政側が日報とタコグラフを照らし合わせて確認する作業であったが、GPS導入後は、除雪機械の走行状況が記録され、自動的に作業日報や走行履歴が作成されるので、除雪費の計算の事務作業が大きく短縮される。

また、県内各市町村でも同様のシステムが

利用されており除雪機械の走行状況がインターネットで公開されているとの情報もある。

本町においては、除雪機械の走行位置を公開することは、現時点では考えていないとしているが、検討する必要がある。

人口減少が進む中、雪のために本町を離れて行くことのないように、雪が多くても不自由のない生活環境を構築できるよう期待したい。

表紙の写真



しあわせな一年を

犬川地区では毎年、年末に新生児に対し、正月用のしめ飾りと記念品を贈っている。

令和5年に誕生した新生児は地区内で5人となっている。子どもは地域の宝として大切に思いこの事業を進めている。

少子化の中、このような事業は大切なことであり、町全体として、少子高齢化の対策を実施し、活気あるまちになるよう取り組んでもらいたいものである。

若い人が、希望にあふれる将来になるために我々も頑張りたい。子どもたちがしあわせになるように祈りたい。

いいね！かわにし 街かどインタビュー



成澤 久美さん(置賜農高教諭)
幸季くん(4カ月)

只今、育休中です。子育て中心の穏やかな一年を過ごしたい。

地元の農業高校として、地域の力になるよう、頑張っしてほしい。期待される人になってほしいですね。



伊藤 博さん(東沢)

来年は、みんなが幸せで健康な年になるように願いたい。県立の高校がなくならないように、がんばってほしい。

置賜の農業高校を町民みんなで応援していきたい。



梅津 昭吉さん(大塚)

来年は小松のまち中が活気ある元気な町になってほしい。「まちなかテラス」の完成に期待。魅力ある公演やイベントがあるフレントリープラザを、町民の方がもっと関心を持ち利用してほしい。

置賜農高演劇部ががんばれ。



リチャード・チンさん(天塚)

来年も健康で元気な年になりたい。国際交流活動が町内に浸透し、活発になればいいと思う。

置賜農高演劇部は、少人数の部員なのに、いきいきと頑張っているのを応援したい。



鈴木 朗子さん(東沢)

来年は皆が心身ともに健康で、明るい一年になるといいですね。

置賜農業高校は、地産地消等農業分野で活躍している。経験したことはきっと将来に生かされると思う。町のイベントに参加している姿を見ると、微笑ましく、たのもしく感じている。



遠藤 智子さん(中郡)

健康を祈り前向きにいろいろなことにチャレンジする年にした。

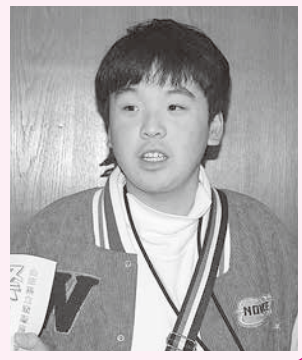
置賜農高生はさまざまな事業に参加して地域に元気を与えてくれる。また、県外、町外からフレントリープラザの公演を観に来てくれるが、地元の方にもたくさん利用してほしい。



阿部 孝夫さん(暁華堂文庫館長)

来年は、何事も安定した一年になればいい。

今年のフレントリープラザ設立30周年をひとつの区切りとして、次のステップへと前進させたい。施設が持つ役割をしっかりと果たし、人々の交流や情報発信につなげていきたい。



梅津 龍司さん(長井市)

後輩の応援にきました。今年の演劇は、全国大会は逃したもののとてもいい出来だと思ふ。思わず2年前に出場した全国大会の緊張と興奮がよみがえってきた。これからも頑張っていきたい。

来年の抱負は、思いっきり仕事に集中したい。

12/15 日 『置賜農業高校演劇部お礼公演』でインタビューしました。
来年への抱負と地元の県立置賜農業高校について聴きました。

通学時の安全対策を

◇プロフィール◇

さかの 坂野 はるな 春奈さん

川西町大字時田
家族構成 夫と子ども2人、
父、母の6人家族
出身地 新庄市
趣味 旅行中郡地区にお住まい
の坂野春奈さんに子育て
や町に望むことをお
聞きました。出会いのきっかけ、
結婚後の生活は夫とは友達や職場の
同僚とのお付き合いで
知り合い意気投合して
8年前に結婚しました。
結婚後2年間は山形市
で過ごし、6年前に夫
の実家で暮らし始めま
した。

仕事はどうですか

上の子が、今小学1
年生、下の子が来年度
から幼稚園に通うこと
になります。母に子ど
もの面倒を見てもらい
ながら、週3回ゴルフ
シヨップで働いていま
す。家族の協力に感謝
しています。

川西町の印象は

新庄市と変わらず、
野生の動植物など自然川西町に望むことは
ありますか豊かで、たくさんいて
のどかなあと感じて
います。また、周りの
人も優しいです。ただ、
子どもの数が少ないの
が残念に思います。子どもと遊ぶときは
近隣市町へ出かけてい
ます。川西町にも親子
で遊べる場所が欲しい
です。また、小学校へ通学
するとき暑い日（熱中

家族みんなで子育て中

症）や冬期間、徒歩で
の通学になっています
ので、ぜひ厳しい季節
はバスでの送迎を実施
してほしいです。
近くに国道287号
バイパスの完成が近づ
いています。子どもた
ちが安心して通れるよ
うに安全対策をお願い
します。要望は町に提言して
いきます。

編集の後で

▼12月の議会も終了し
新年を迎え新たな気持
ちで議会だよりをより
良くしたいと思っています。
特に、表現方法
を工夫して編集作業を
行っています。▼これ
からも、読みやすく分
かりやすい議会だより
を目指し頑張っていき
ますのでご愛読をお願
いします。▼いよいよ
冬將軍の季節になりま
した。町民の皆さんご
自愛頂き、良き1年と
なりますようお願いい
たします。

(鈴木幸)

発行責任者 井上 晃一
委員長 橋本 欣一
副委員長 鈴木 幸廣
委員 伊藤 進
同 寒河江 司
同 遠藤 明子
同 寒河江 寿樹
アドバイザー(文章)
佐々木 賢一
遠藤 勝則
アドバイザー(写真)
山田 順一
齋藤 文夫